

# 低温といもち病伝染源量の関係

福島県農業総合センター 生産環境部  
平成18年度農業総合センター試験成績概要

## 1 部門名

水稻 - 水稻 - 病害虫発生  
分類コード 01-01-22000000

## 2 担当者

山田真孝・皆川博孝

## 3 要旨

冷害年には、下位葉いもち病病斑の孢子形成能力が高く維持されているため、上位葉に病斑が発生していても、穂いもちが多発するおそれがある。

- (1) 平均気温が低温であるほど、葉いもち病斑の孢子形成能は長期間高く保たれる。
- (2) 7月上旬に感染した病斑は、冷害年の1993年、2003年には、平年に比べ長期間高い孢子形成能を維持していたと推定された。
- (3) 冷害年には、上位葉に葉いもちの発生が認められなくても、下位葉にいもち病が発生していれば、穂いもちが多発するおそれがある。

## 4 その他の資料等

なし